

公開学習会「私たちと伊勢志摩サミット」 「地方分権」って、本当にあるの？

日時 4月17日（日）13:30～16:30
会場 YWCA ビル 404 号会議室
参加者 21人（関係者含む）
話題提供者 松瀬康子さん

内容

はじめに

◆進行：主催へっちゃんらネット・滝より

名古屋 NGO センター内の自主活動・TPP 勉強会活動から、「地域自立・地域自治」をテーマに活動しているへっちゃんらネットが本日の主催。

へっちゃんらネットの活動の中で南木曾町との出会いがあり、木曾川流域圏での自立を考えるための足場として、今回の学習会をしてみようという運びとなった。

また、へっちゃんらネットは5月23, 24日に開かれる「市民の伊勢志摩サミット」の分科会「地域間格差」も担当しており、そこで取り上げられる話題とも通じるものがあるとして、今回「公開学習会・私たちと伊勢志摩サミット」と銘打って開催することになった。

◆里山整備&景観保全 つまごえん代表・松瀬 康子さんからのお話

◎南木曾町の妻籠宿保全のあゆみと「つまごえん」

中央線で名古屋から1時間半ぐらい行くと南木曾町がある。昭和の大合併（昭和36年）で4つの村が合併し、南木曾町となった。南木曾町にある妻籠宿は、昭和51年に文化財保存法集落保存の保存指定地区に制定された。

つまごえんの活動のきっかけは昭和43年、長野県の明治100年を機とする歴史的町並み保存事業の取り組みにあった。

当時の状況は、戦後まもなくの材木屋隆盛の時期は町に活気もあったが、昭和39年の東京オリンピック、昭和45年の大阪万博に象徴されるような高度経済成長期の波を昭和30年代から受け始め、集落の在り方を変える時期だった。「妻籠を愛する会」の発起人であり現理事長の小林俊彦さんは、当時の町長だった片山さんと共に妻籠保存の手立てを模索し、集落保存にその糸口を見出した。そして、「妻籠の観光開発は自然環境を含めた宿場景観保存しかありえない」という考え方を地元住民とともに確認し、昭和46年に「売らない・貸さない・壊さない」を謳った住民憲章を作った。今も行政、有識者、妻籠住民によって憲章に即した保存が行われている。

その結果、今では妻籠は海外からの観光客にも人気！あくまでも自然のままであるのが良いそうで、

このように妻籠宿の観光資源は「保存」という開発が進められ、地域の人が一丸となって動いてきた。ただ、それから半世紀の歴史を経て、景観保存に尽力した人々も子、孫へとわたる三世代の中でちょっとした不協和音も出始めている。

そうした不協和音を探るべく 18 年前、妻籠宿にアンテナショップを作ろうと思い茶房「康」を開いた。そこで里山遊休農地の再生、里山への道路整備を進める中、「康」に立ち寄った名古屋からの観光客とともに里山での畑活動が始まり、名古屋組を交えた現在の「つまごえん」活動に至る。今日のこの会場には、3 人もそのメンバーが来てくれている。その一人は、つまごえんの地主さんの家があり、そこに大阪から移住して活動に参加している。また、地域おこし協力隊のメンバーで来ている人もいる。

「地方分権」という本日のテーマに照らしてみると、妻籠の人々が、妻籠宿をきちんと管理したから今があるのだが、それをどうつないでいくかが課題。先日、地域おこしに取り組む若いメンバーが小林さんからお話を聞いて学ぶという企画をされたようで、よかったと思う。自分たちの身の回りにあることを自分たちで解決していくことが大切だということ。こうして茶房からのネットワークもできつつある。

◎リニア新幹線の開発

今から 2 年前、リニアのコース選びに長野県も手を挙げ、妻籠宿がかかってしまった。妻籠周辺には、男滝・女滝という良い滝（観光スポット）があるが、地下を深く掘るので、これが枯れてしまうのではないかという懸念もある。

リニア対策協議会は、この 3 月で 13 回開催された。JR の担当者も参加しているが、地元の不安に対する説明は丁寧とはいえないものの、全く誠意は感じられない。それどころか、こちらの発言がコントロールされている気がする。JR は、協定書を結ばないと言っているのに、記録をとるようにした。南木曾町は、リニアの工事でゆれている。推進派もいるが、リスクの話になると逃げてしまうので、時間をかけて、そのリスクを理解していただきたいと思っている。

すでに工事にかかっているが、沿線のあらゆるところで問題が起きている。工事中の道路について、景観保存地区なのに？工事中の車両が 45 秒に 1 台走る計算。渋滞する可能性。狭い道。1 日に 690 台との予想。リニア新幹線建設に関する要望書の回答では、土日祝日は走らせないとのことだが、完成の年月は遅らせることができないとのこと。残土の問題もあるし、水資源の問題では井戸とか用水の調査について、JR の回答はおざなり。どうしたものか？と考えている。

また、報道関係者は、夢物語で押されてしまった。時には、信濃毎日新聞に「南信にも山信仰があり、諏訪神社が各所にあるのだが、お祭りができなくなるのではないか？」という不安の記事が出ることもある。伝統文化に支えられている地方は「反対、反対」だけでなく、質問をしていく姿勢は必要。

リニアについて、いけいけどんどの推進派もいる。岐阜県中津川に大きな機関区ができるのではという夢物語がある。山梨の試験線の視察では、残土の置き場がすごいことになっていて誘致をして団地を造る予定だったようだが、住宅公団がパンクしてできなくなり、ロックフィルダムみたいになっていた。どうやら活用の途はないようだ。水の流れも変わり、井戸を掘って水の供給を行っていた。維持管理、モーターの保証は、30 年だけ。それについて問題になっていると JR に質問したら、保証しているから問題ではないとの回答。強硬されたら、黙っているしかないのか？自分たちの権利を主張しよう！

◆質疑応答

会場より

あまり知らない部分がある。自治体、県、国、JR といった関係の全体像の中で、とりわけ南木曾町と長野県がどこまでもの言えるものなのか知りたい。

松瀬さん

対策協議会には県の職員も出席していて推進対策室ができていますが、県は住民の意向を伺うという姿勢。南木曾町が住民の意見を聞いているが、話は交錯している。自治体ごとにも温度差がある。

対策協議会は26年5月ごろに46人で発足。公募があり、それにはかなわかったが、2回目から参加できた。女性は一人のみ。新聞社はリスクをなかなか書かない。用地買収、地権者がよくわからない場合がありJRは自治体に働きかけている。県や町は、協議会の決定に従うという姿勢。

地方活性化と称したリニア便乗組が多い。中津川に機関区、飯田に駅ができることで夢物語を描いている人が多い。それが招くリスクを明確にしていくことが重要だと思う。

ルート上にある御嵩町は空間放射線量が、0.3ぐらい出ている。小林さんが調査したところ、線量が高いところが多い。

進行より

ここからは、松瀬さんを知る様々な立場の方が会場にいらっしゃり、かねてからリニア問題に取り組まれている方もみえるので、そうした方々の思いを聞き、それぞれの立場から何ができるのか、その可能性を探りたい。

前出・長野県高森町議員

高森町は人口1万3千人ほど。近くにリニア長野県駅ができる予定だったが、飯田市内に移って行ってしまい、事前報告会への参加者が減る。住民組織はあるが、リニアで盛り上がる部分とぐっと下がる部分が出てくるので、そういったところも踏まえていかないと、反対は難しいと思う。地方自治、地方分権を使ってこなかった影響がある。

他府県から移住した、つまごえん関係者

13年5月に大阪から南木曾へ移住。ある社長さんが南木曾の農家さんの知り合いで、そこを拠点に米づくりをしていた。半年間仕事をし、その後「つまごえん」と関わる。ほか、地域で7つぐらいのコミュニティとも関わる中、「妻籠をどうしていくか？どうしていったらよいか？」が関心の的。先の木曜日、（前出、「妻籠を愛する会」理事長の）小林さんから「保存とはなにか？建物なのか？川の流れ、鳥の声などを守るのではないか？」という話を聞いた。「保存」の根本を崩されてしまいそうな中、こうした声が大きき波になるようにしていきたい。リニアのリスクは？まだあまり認識されていないが、これから「保存」とは何か？を考えながら明らかにしていきたい。

名古屋在住のつまごえん関係者

つまごえんには魅力がある。つまごで縁ができた。名古屋の空気とは違う。四季感もある。人も良い。パワーもらっている。イベントには、70人・80人も来ることがある。味噌づくりとか野菜づくりができる。

リニア電磁波の問題、トンネルの問題に、ふるさとがなくなってしまう感覚。署名を集めるとか妻籠

のためのネットワークを作りたい。外国人にとっては、ジブリの世界で、これが本当の日本という感覚。こうした妻籠の良さを伝えて、つまごえんにお返しをしたい。日本の良さもアピールしたい。

長野県高森町議員

20 年前に東京から高森町へ来た。そこでは飯を食えないという人が多く、コンクリートの生活が良いという価値観を持っている人が多い。そう考える人々は、飯田は不便で、リニアなら 40 分で東京まで行けると考えるし、例えば名古屋の熱田神宮を南木曾のように景観ごと保全しようとは考えないのではないか。人間らしく生きるには、そうした個々の考え方を変えなければいけない。都市化を是とする価値観を覆すことが必要。

松瀬さん

姜尚中（カンサンジュン）氏が言っていた。港区の所得と島の所得格差はとてもあるが、それほどの違いがあるのか？豊かさという価値観を間違って植え付けられたのではないか？里にこもりたいという願望がある人の価値観、市民権さえ脅かされているようだ。

進行より

会場から、松瀬さんの活動のフォローやご意見をいただいたところで、改めて会場からの質疑を伺う。

会場より

JR 東海が協定書を結ばないのはなぜか？

松瀬さん

それは解決されていない事象が多く、補償しないといけないものが増えてしまうからではないか。そうやって民間の営利事業から、市民権がなぜ奪われるのか疑問に思う。

会場より

住民の中で賛成される理由は？

松瀬さんの回答

地域振興ではないか？機関区ができるので、ベットタウンの可能性に期待していると思う。ただ、山梨試験線のように問題が起きるのでは？10 年後の話なのに。メリットがあるならば、もっとちゃんとした計画書を提示すべき。

会場より

協議会で議論されたことは、どこかに発信されているか？

松瀬さん

市の官報？に発信されているが、内容が難しい。自治会長さんからで伝えられてはいる。南木曾町の HP にも掲載されている。

会場より

推進派がメリットとする具体的なイメージは？

松瀬さん

観光客が増えると考えているであろうが、具体的なものが出てこない。木曾川対岸道路を造るという

が、それがリニアのための政策テクニックのようで推進側のデザインはないようだ。

前出・長野県高森町会議員

そのように住民側の具体的デザインがないので、地方分権も自治もなくなっている。具体的デザインがないというのは他人任せの無責任なアイデアであり、人々が都市化と地域振興を結びつける無責任な幻想から脱することが重要である。

会場より

それと、地方には財源もないので、最終的には夕張のようになってしまう。

進行より

意見交換も盛んになってきたところですが、まとめに入りたい。はじめにお話したとおり、「市民の伊勢志摩サミット」の公開学習会として開催していることから、ここからは市民の伊勢志摩サミットについてご案内し、閉会とする。

泉京・垂井スタッフより

市民と伊勢志摩サミットにて「地域間格差」分科会担当。

泉京・垂井は垂井町のまちづくりに参画し、長良川河口堰や徳山ダムなど治水・利水、林業など一次産業の衰退問題など、今日の話題と通じる活動をしている。引き続き、市民の伊勢志摩サミット分科会でも意見交換をしたい。

市民の伊勢志摩サミット呼びかけ団体、名古屋 NGO センターより

市民の伊勢志摩サミットは東海地域のネットワークづくり。東京を中心とした全国ネットワークとも連携し、作成した提言を G7 首脳に届ける。また、海外のメディアにも発信する。私たちの持っているメッセージを示す良い機会。ODA 等、大きな問題が身近な問題と関わっている。

以上